

01: 真善美について

真: 絶対の真はありえないといわれるほど困難な問題であるが、弓における真とは、真の弓は偽らないことであり、偽りのない射はどんなものかというものも弓における真実の探求の一面でもある。真の弓は、弓の冴え、弦音、的中、によって立証される。一射ごとに真を求めて行くのが弓道の道である。

善: 善は倫理性をさす。弓によって親しみ、共同し、和平であり、心的にも平静を失わないことが必要である。

美: 真なるものは美しく善なるものも美しい。これを具体的に表現しようとする射礼もそのひとつである。

02: 弓道の理念について

宇野要三郎先生が強調されていたことで、4つの項目がある。

- ① 射法、射技の研修
- ② 礼に即した体配の修練
- ③ 射品、射格の向上
- ④ 人間完成の必要

以上のことが弓道修練の眼目であり、体配と射法射技が一体となり、品格のある射が生まれるようにする。

日本の弓道は的中至上主義はとらず、調和の美を求めるものである。

更に弓道の最も大切な点は、至誠と礼節である。人に勝つことよりも、正しい信念に基づき、誠を尽くすことが大切で、これらのことを心に銘記し、修練に当たることが大切である。

03: 弓道の倫理性について

日本の弓は戦陣の中で発達しながら、儒教の影響をうけて「技」から「道」へ進んだのである。技術には倫理はないが、「道」には倫理が伴う。「射は進退周還必ず礼にあたる」というのはそれである。

弓の理論的な面と弓体の進歩に伴って、射法もまた変化するものであって、今日の日本の弓が長弓としての独特の性格をもったのは、「弓道」としての道義性が弓射に主要な位置をしめるようになったからである。

「射は礼に始まり礼に終る」といい、また「進退周還必ず礼にあたる」といわれ、弓を射る方法である射法と礼が一体となっている。今日「射礼」といわれるのがそれである。

04: 弓道の徳育的效果について

射即人生、射即生活といわれるように弓道は生き方につながるものである

射で悪い点を直すように、生活の中での悪い点も少しずつ直してゆくものである。

真善美の善: 親しみ、共同し、和平であることが出来るように人と関わってゆくものである。